

北海道浮魚ニュース

平成 24 (2012) 年度 7 号

2012 年 7 月 3 日

道総研水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6 月 22 日 ~ 28 日の期間、北海道渡島大島周辺から積丹半島西方沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

調査海域のスルメイカ分布密度は昨年及び一昨年を上回った。魚体サイズは昨年より大きい。

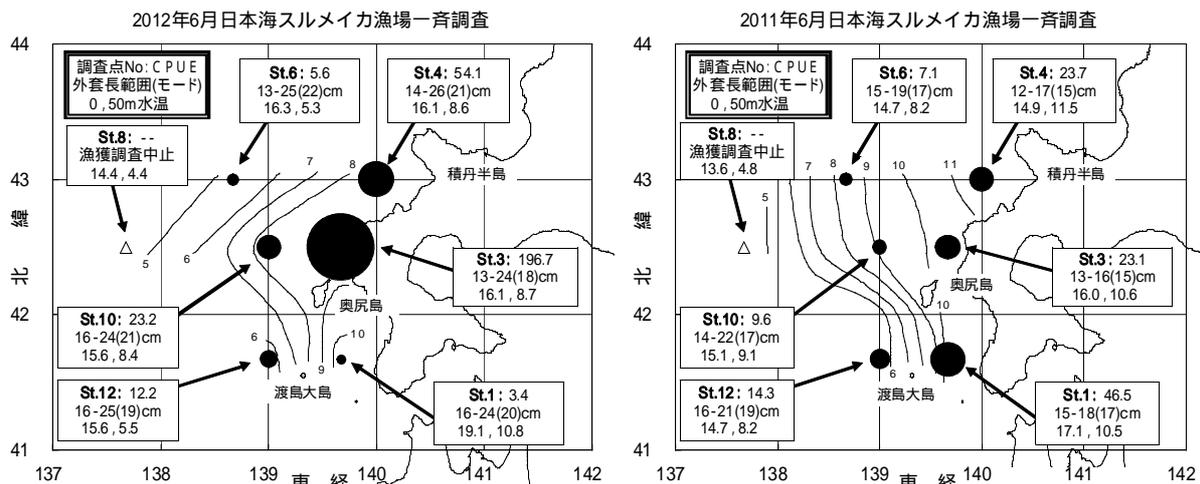


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2011 年との比較)。 ● は漁獲調査点。面積は CPUE に比例。
△ は釣獲調査中止。等温線は水深 50m の水温 (°C)

1 . 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 7 地点の表面水温は 14.4 ~ 19.1 (昨年 13.6 ~ 17.1)、水深 50 m の水温は 4.4 ~ 10.8 (昨年 4.8 ~ 11.5) の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m 層の水温分布は全体的に昨年より低く、調査海域の北西側の沖合を中心に、6 °C 以下の水温の低い海域が昨年より広い範囲に見られました。また、8 °C 以上の比較的水温の高い海域は、昨年に比べ沿岸寄りの狭い範囲に限られました。

2 . 分布密度 (図 1)

漁獲調査点 7 地点のうち、調査を実施した 6 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) の平均は 49.2 で、昨年 (20.7) 及び一昨年 (23.6) の値を大きく上回りました。各調査点の CPUE は 3.4 ~ 196.7 (昨年 7.1 ~ 46.5) の範囲にあり、全体として奥尻

島以北の沿岸寄りで分布密度が高く、特に瀬棚近海の St.3 で 196.7 という非常に高い値を示しました。一方、昨年最も分布密度が高かった渡島大島東方 St.1 の CPUE は 3.4 で昨年(46.5)を大きく下回り、全地点で最も低い値となりました。

3. スルメイカの大きさ

調査海域全体のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は 13 ~ 26cm (昨年 12 ~ 22cm、一昨年 13 ~ 27cm) でした。最も多く出現したイカの大きさ(モード)は 21cm (昨年 16cm、一昨年 19cm) で、全体的な魚体サイズは昨年及び一昨年より大型でした(図2)。各調査点のモードの範囲は 18 ~ 22cm (昨年 15 ~ 19cm) にありました(図1)。

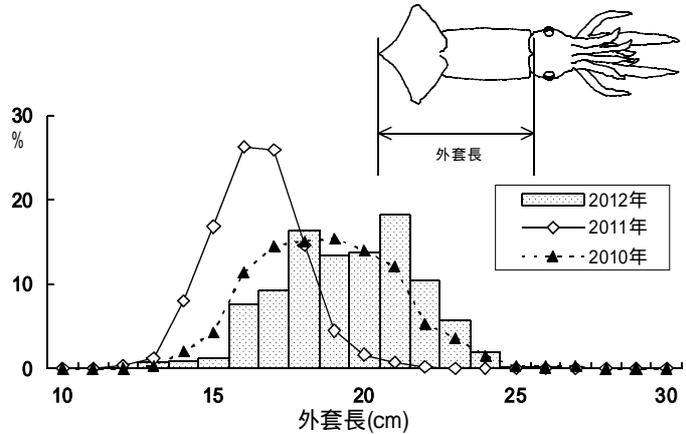


図2 調査海域全体の外套長組成の経年比較

4. 標識放流(図3)

調査期間中、3調査点で計 5,314 尾の標識放流を行いました。標識は裏面に「JPN」、表面に「J36 ~ J89」の番号が記載された黄色アンカータグです。標識のついたスルメイカを再捕された方は最寄りの水産試験場まで報告いただきますよう、よろしくお願いいたします。

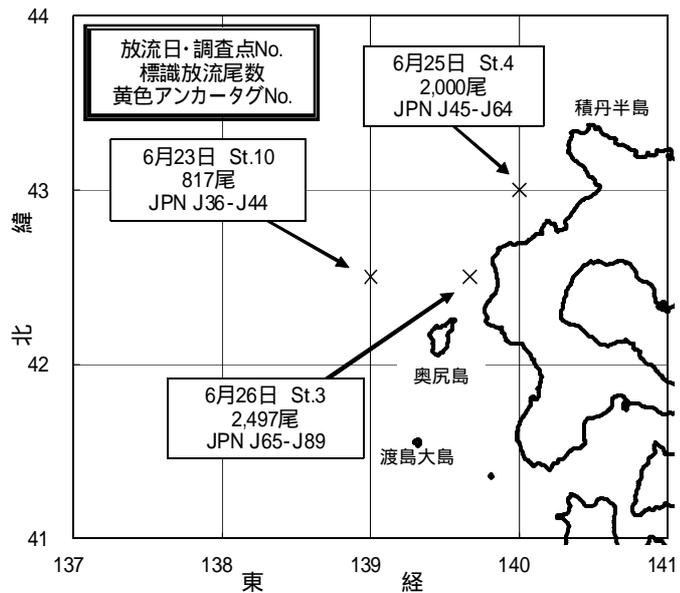


図3 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識番号

(文責：函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991)